

平成26年8月8日

開成町議会議長 小林哲雄 様

開成町議会議員 前田せつよ ㊟  
 吉田敏郎 ㊟  
 高橋久志 ㊟  
 下山千津子 ㊟  
 佐々木昇 ㊟

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 （調査事項又は研修項目）	「第80回町村議会広報研修会」 （議会広報編集における調査・研究）
目的地	名称等：シェンバツハ・サボー（砂防会館別館会議室） 住所：東京都千代田区平河町2-7-5
期日（期間）	平成26年7月10日（～ 年 月 日）
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

## 第 8 0 回 町 村 議 会 広 報 研 修 会

\* 開催日 平成 2 6 年 7 月 1 0 日 (木)

\* 場 所 シェーンバッハ・サボー

(東京都千代田区平河町2-7-5)

	科 目	講 師
1	開講のあいさつ	江端 康二 氏 (全国町村議会議長会事務総長)
2	「わかりやすい表現・表記のために」	佐竹 秀雄 氏 (日本漢字能力検定協会現代語研究室室長)
	I はじめに II わかりやすさの原理 III 表現の技術—わかりやすい文章を書く IV 表記の基礎—読みやすい表記を心がける V おわりに	
3	「議会広報誌の編集」 —読まれる議会広報誌・読まれない議会広報誌—	西村 良平 氏 (日本エディタースクール講師、日本経営協会講師、実践女子短大講師)
	I 読まれる議会広報誌 II 議会広報誌の役割 (仕事) III 記事の配列・配置 IV 見出しの作成 V レイアウトの方法 VI 編集後記の掲載	
4	「写真の見方、考え方」	神島 美明 氏 (写真家)
	I 写真の価値基準の変化 II しっかり撮るという意思が必要な時代 III 他の写真との差別化 IV 美とは五感で撮る	

## 第80回町村議会広報研修会派遣成果報告書（別紙）

前田 せつよ 議員

### 所感等

#### 1. 「わかりやすい表現・表記のために」

広報紙の内容は「わかる・伝わる」の2つを原則として、文章・文脈の原理を通じて作成していくことなどを受講しました。

特に印象深い事柄は、正しさは手段であり、目的はわかりやすさにあること。また、手段が目的になっているとの指摘がありました。

私は、議会用語に思いをはせつつ、必要不可欠な正しさを保ちながら、表現していくことに挑戦していきたいと思いました。それは文章・文脈の性質を十分に理解していくところから始まることも学びました。

#### 2. 「議会広報紙の編集」～読まれる議会広報紙・読まれない議会広報紙～

読まれる、読まれないという観点から、議会の広報紙はもとより、社内報など様々な雑誌からも具体例をあげた編集作業の工程を研修しました。

編集者は目次、見出しなど、まんねりを打破していく気概が必要です。そして、編集担当者の質が問われているのが編集会議の充実度にあると思いました。

#### 3. 「写真の見方、考え方」

人は見えないものに興味を覚える。というフレーズから脳心理学に至る話しは大変に興味深いものでした。写真は文章よりもアピール度が高くなるので、全編集員でしっかりコンセンサスを得たものを掲載する。カメラマンのセンスアップが最も重要だと学習しました。

吉田 敏郎 議員

### 所感等

#### 1. 「わかりやすい表現・表記のために」

ひとつの文にはひとつのことだけを書く。重要なことを先に述べ、付加的なことを後で述べる。敬語の過剰を避ける。読み手が文章を読みながら、どのように思うか、どのように感じているかを推測しながら書く態度が必要。

2. 「議会広報紙の編集」～読まれる議会広報紙・読まれない議会広報紙～  
読み手は、読むのも読まないのも、見出しでひろっていく。見出しはよく考えて、いつも同じようではダメ。

3. 「写真の見方、考え方」

地域の歴史地、活躍している人、朝の景色等をシリーズ化し、次を期待してもらおう。人物の肩越し、葉っぱや花越しで撮ると良い写真になる。

\* 今回の研修会、議会広報誌を今まで事務局に任せて、これからは議員が作成するという議会にとっては、良い研修会であったろうと思うが、既に議員自らが作成している開成町にとっては参考になることが少ない研修会であった。特に写真に関しては、技術的なことに終始し、賞に入るための写真の取り方が強く感じられた。

高橋 久志 議員

所感等

1. 「わかりやすい表現・表記のために」

広報誌の文章の作成では、切れ目を作って箇条書きにすること、わかりやすく文章を書く重要性、皆さんに読みやすい文章を書くことを研修した。表記では事例をあげて説明されて参考になった。

2. 「議会広報紙の編集」～読まれる議会広報紙・読まれない議会広報紙～

目次の目的と内容の記載は大切であることや見出しの必要性を学ぶことができた。

3. 「写真の見方、考え方」

写真家だけに写真の見方や考え方について専門的に話された。議会広報誌の写真も重要なものと感じた。

所感等

台風の影響で天候が大変心配された日程での研修であった。キャリーバッグ持参の方や、様々な身支度で全国から500人近い参加者があり、仲間の熱意に身が引き締まる思いであった。

私達広報委員は、議会だよりで町民の皆さんに議会活動を報告するのは無論の事ですが、事業企画がどのような過程で決定され、審議がどのように行われたか等を町民の皆さんに分かりやすく伝えていく重要な役割を担っている訳です。

今回の1番目の「わかりやすい表現、表記のために」の講演は、わかりやすさの原理の中の1つ目に離散化の原理があり、アナログ時計とデジタル時計を例にあげての説明で実に具体的であり、直ぐになるほどと理解できた。

2つ目の文脈の原理にしても、例文を引用しての具体的な説明であり、良かった。

次に、表現の技術として「わかりやすい文章を書く」では、文章構成上の留意点において、箇条書きの精神・予約の精神等を悪文例・添削例で学び、これもまた具体的で良かった。

2番目の「議会広報誌の編集」では、具体的な事例説明の中で、見た目がいつも同じであると、マンネリ化・つまらない等の内容で理解した。

3番目の「広報写真の撮り方」で印象に残ったことは、美とは五感で撮るそうであり、写真の見方、考え方として現在のデジタルカメラの進化に伴い、技術があればイメージどおりの画像が作れるという内容であった。

これまでも足柄上郡町村議会議長会、議会広報編集委員研修会にも数回参加（50人前後の参加）し、研鑽の場としての気持は同じであるが、会場の雰囲気も違い、心新たに充実した研修会でした。

今後も、町民の皆さんに開かれた開成町議会として伝わる・読んでもらえる・親しみを感じる議会だより作成に努力してまいります。

所感等

1. 「わかりやすい表現・表記のために」

- ・わかりやすい文章にするための留意点として、文章に区切りをつける。文を短くする。【箇条書きの精神】また、次に何を述べるかを前もって知らせる書き方をする。【予約の精神】の話があった。予約の精神の話は初めて聞くものであり、参考になった。

2. 「議会広報紙の編集」～読まれる議会広報紙・読まれない議会広報紙～

- ・見出しの重要性を感じさせられる講義であった。
- ・実際にアドバイスを受けながら徐々に良くなっていく広報誌を例にあげながらの講説はわかりやすく参考になった。

3. 「写真の見方、考え方」

- ・写真の撮影・編集について技術的な話があり、実行するには難しいところもあったが、出来るところは活用し、良い写真を作っていきたい。

\*3つの講義に共通して言われていたことは、「読み手の気持ちになって」ということでした。今後も、そういった気持ちをより強く持って、編集にあたりたいと思います。